

講義名	経営戦略論A			授業形態	
担当教員	森口 文博	開講期・曜日・時限	前期 月曜日 5 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生

主題と概要

ビジネスの現場では、あらゆる課題が複雑に入り組んでおり、経営の意思決定は一筋縄にはいきません。ただし、ビジネスを成功に導くために必要となる型やパターンがあり、上手に活用することにより、的確な意思決定を行うことが可能となります。本講義では、基本的な経営戦略にまつわる理論や戦略分析のフレームワークを紹介し、企業の事例を通じて戦略の分析・提案の方法について学びます。すなわち、ある事業を対象として、そのあるべき姿から打ち手を構想し、行動に移すために必要な考え方を学びます。全社（企業）戦略については、経営戦略論Bにて取り扱います。組織論等の企業経営に関連する領域にも触れながら、企業経営を構想し、自ら戦略立案を行える基本的な思考力の構築に主眼を置きます。

到達目標

学生は、経営戦略のうち、事業戦略（競争戦略）の基礎的な分析モデルやフレームワークの活用方法を習得する。
 学生は、上記分析モデルやフレームワークを活用して、企業を取り巻く環境や自社の持つ資源を的確に分析できるようになる。
 学生は、自身で分析した結果をベースとして、戦略提案が行えるようになる。

提出課題

毎回講義の最後に簡単な課題（ブラクティス）を出します。
 予習・復習を行い、講義で学んだことを確実に自分で活用できるように努めてください。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

課題（ブラクティス）の内容は学生のみさんの意見や回答の理由を問うもので、シンプルで負担にならないものを予定しています。提出いただいた課題は、次週の講義の中で解説を行います。また、受講生からの質問をメールにて受け付けます。受け付けたメールについて、他の受講生にもフィードバックした方がよいと判断した場合は、次回の講義の中で紹介し、解説します。

評価の基準

期末試験の成績：60%
 毎回の課題提出：40%

履修にあたっての注意・助言他

「もし、自身があの企業の経営者だったら・・・」と当事者になったつもりで、その企業の経営戦略を考えてみましょう。講義で学ぶ経営戦略にまつわる理論や戦略分析のフレームワークに関する理解が深まります。自身が疑問に思うことは、他の受講生も疑問に思っている可能性が高いです。よって、疑問点はそのままにせず、積極的に質問・発言してください。他の受講生の迷惑となる行為は退出を命じることがありますので、留意ください。

教科書	.,ベシック＋経営戦略.	井上達彦/中川功一/川瀬真紀	中央経済社	2640	9784502325014
-----	--------------	----------------	-------	------	---------------

参考図書	.,1からの戦略論.	嶋口充輝/内田和成/黒岩健一郎	碩学舎	2640	9784502167416
------	------------	-----------------	-----	------	---------------

その他

毎回、講師作成のレジュメをLMSにアップロードします。パーしきれない点についてレジュメや参考文献を用いて説明します。その他参考となる図書等は、適宜講義の中で紹介します。

授業計画

1. 方向：イントロダクション【経営戦略とは？】（教科書第1章）
2. 戦略：SWOT分析【SWOT分析】（教科書第2章）
3. 利益：プロフィット【KGI, KPI】（教科書第3章）
4. 構造：ストラクチャー【ファイブ・フォース分析】（教科書第4章）
5. 位置：ポジショニング【一般戦略分析-2軸で考える-】（教科書第5章）
6. 資源：リソース【リソース・ベースド・ビュー（RBV）、VRIO分析】（教科書第6章）
7. 相手：ゲーム【ゲーム理論ベースの戦略論】（教科書第7章）
8. 構想1：デザイン【戦略構想の4ステップ（洞察：フォーサイト、逆転：リバーズ、類推：アナロジー）】（教科書第8～11章）
9. 構想2：デザイン【戦略構想の4ステップ（証作：プロトタイプ、検証：バリデーション）】（教科書第12章・13章）
10. 人脈：ネットワーク【社会ネットワーク・チームビルディング】（教科書第14章）
11. 共同：部門間連携【事業戦略推進に適した組織マネジメント】（担当教員作成資料による講義）
12. 知財：IP【特許、実用新案、商標、意匠、著作権の戦略的活用】（担当教員の業務経験からの講義）
13. 市場地位別戦略【リーダー、チャレンジャー、ニッチャー、フォロワー】（参考書第5章）
14. 転換：ピボット【事業転換の論理】（担当教員作成資料による講義）
15. 撤退：負の出口戦略【事業撤退の意思決定とその論理】（担当教員作成資料による講義）

受講生とのインタラクションを交えながら、各回の講義のキーワードにまつわる時事も取り入れて講義を行います。講師が各回の講義のテーマに関する説明・解説を行います。毎回、講義内容に関する課題（ブラクティス）に取り組んでいただき、次回の講義の冒頭で課題のフィードバックを行います。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に任せ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習：各回の講義に該当する章を読んで内容をあらかじめ調べておく。疑問点などを整理しておく。
 復習：各回の講義で取り扱ったテーマを自身の言葉で説明できるように講義資料を振り返りまとめる。また、課題で取り組んだ内容についても振り返りまとめる。

講義と合わせて、上記の予習・復習を反復することで学習効果が高まりますので、ぜひ実践してください。予習・復習のバランスは各自受講生に委ねますが、合わせて4時間を目安とします。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本講義は、企業マネジメントに関する幅広い知識と専門領域で要求される知識・実践的能力を身につける講義です。経営理論や戦略分析のフレーム（道具）を提供し、企業の現状を分析し、あるべき姿に導く確かな戦略立案能力（使い方）を身に付けていただきます。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

講義内での積極的な発言やディスカッションを期待しています。講義中にラウンドで受講生の発言を順番に切り取り、受講生の発言を全体に共有し、その内容を受講生とともに考え、受講生との対話を重視しながら講義を実施します。LMSを活用して、タイムリーに受講生の疑問・質問に答えられるように運用します。オンラインツールを通して提出いただいた課題について、次週の講義の冒頭で、受講生の回答例を示しながら解説します。その他オンラインツールを使用する場合は、講義内で案内します。

実務経験の有無及び活用

政府系金融機関での9年間の融資課外・各種ソリューション提案の実務経験がありますので、ビジネス現場の実態も交えた講義展開ができます。

大学での7年間の産学連携支援、知的財産管理業務の経験があり、技術シーズがビジネスとして上市されるプロセスに携わった経験談を交えた講義展開ができます。

備考

質問・疑問点等の問い合わせは講義資料に記載のE-mailアドレスまでご連絡ください。